

# 河内麦づくり情報～赤かび病防除編～

令和2(2020)年3月31日 河内農業振興事務所

## 1 気象概況(宇都宮気象台より)

今冬は記録的な暖冬の影響で、11月上旬から3月中旬までの平均気温は、7.2℃と平年より1.9℃高く推移しています。降水量は266mm(平年比115%)と多く、特に短期間にまとまって降る傾向でした。日照時間は828時間(平年比94%)となっています。

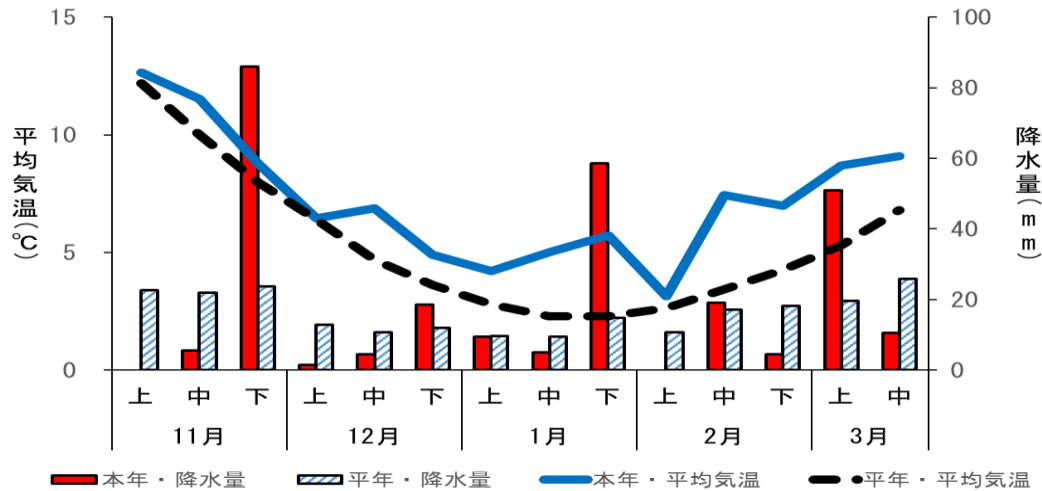


図1 平均気温と降水量の推移

## 2 生育概況

本年は降雨や台風19号の影響があったものの、播種作業は平年並に進み、苗立数は平年並で初期生育は良好でした。

記録的な暖冬の影響により生育は進んでおり、管内二条大麦における3月18日調査の結果、茎数は774本/m<sup>2</sup>(平年963本/m<sup>2</sup>)と茎数の整理が始まっています。二条大麦・小麦ともに茎立期が早まっており、出穂期も平年より早まる可能性が高い状況です。

## 3 気象庁1か月予報(3月26日(木)発表)

<向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)>

【気温】	20	40	40	■ 高い(多い)
【降水量】	20	40	40	■ 平年並
【日照時間】	40	30	30	■ 低い(少ない)

## 4 出穂期予測

表1 出穂期予測(農試・麦類研究室、ニューサチホゴールデン)

(3月18日現在)

場所	茎立期		出穂期予測				出穂期		備考
	本年	平年	平年並	平年-1℃	平年+1℃	平年+2℃	平年値	前年値	
農試本場	3月5日	3月17日	4月14日	4月16日	4月11日	4月9日	4月20日	4月18日	11月7日播種 (前年・平年 11月5日)

## 5 赤かび防除

赤かび病は出穂期以降に天候不順が続くと発生の可能性が広がります。また、気温が20～27℃のときに特に感染しやすいため、比較的暖かい年に多発する傾向があります。不稔粒発生・登熟期連続降雨等、多発のおそれがある場合、大麦では1回目散布の7～10日後を目安に2回目の薬剤散布、小麦では3回目の薬剤散布を実施しましょう。

○防除適期○

**大麦：穂揃い期7日～10後**（穂揃い期は全茎の80～90%が出穂した日）

**小麦：開花始と開花20日後の2回**

表2 不稔の発生を助長させる主な気象条件

不稔の発生を助長する気象条件	出穂期前8～10日の低温（-1.0～-1.5℃の低温に3～4時間遭遇）
	出穂期前後の降霜
	出穂期前後に25℃以上の高温に遭遇

表3 赤かび病に登録のある主な薬剤（令和2（2020）年3月31日現在）

農薬名（成分名）	麦種	希釈倍数 使用液量	使用時期／ 本剤の使用回数	薬剤系統名	FRACコード
シルバキュアフロアブル （テブコナゾール）	大麦	2000倍 60～150L/10a	収穫14日前まで／2回以内	EBI	3
	小麦		収穫7日前まで／2回以内		
チルト乳剤25 （プロピコナゾール）	大麦	1000～2000倍 60～150L/10a	収穫21日前まで／1回		
	小麦		収穫3日前まで／3回以内		
トップジンMゾル （チオファネートメチル）	麦類 （小麦を除く）	1500倍 60～150L/10a	収穫14日前まで／3回以内（出穂期以降は1回以内）	ベンゾイミダゾール	1
	小麦	1000～1500倍 60～150L/10a	収穫14日前まで／3回以内（出穂期以降は2回以内）		

表4 無人航空機による散布に登録がある主な薬剤（令和2（2020）年3月31日現在）

農薬名（成分名）	麦種	希釈倍数 使用液量	使用時期／ 本剤の使用回数	薬剤系統名	FRACコード
シルバキュアフロアブル （テブコナゾール）	大麦	16倍 0.8L/10a	収穫14日前まで／2回以内	EBI	3
	小麦		収穫7日前まで／2回以内		
チルト乳剤25 （プロピコナゾール）	大麦	8倍 800ml/10a	収穫21日前まで／1回		
	小麦		収穫7日前まで／3回以内		
トップジンMゾル （チオファネートメチル）	麦類 （小麦を除く）	8倍 0.8L/10a	収穫21日前まで／3回以内（出穂期以降は1回以内）	ベンゾイミダゾール	1
	小麦		収穫14日前まで／3回以内（出穂期以降は2回以内）		

- ・必ず農薬容器のラベルをよく読み、使用方法・使用上の注意事項を守りましょう。
- ・FRACコードが同一のものは作用点が同じなので、連用を避けるようにしましょう。

## 6 今後の管理

### 1) 排水対策

- ① 降雨に備えて、明きよの出口が、ほ場外の排水路に接続されている。
- ② 溝が土や泥等で埋まっていない（埋まっていたらさらう）。

※出穂期以降の湿害は、枯熟れ等で収量や整粒歩合の低下、細麦など粒の充実を著しく阻害するため、適切な排水対策を行いましょ。

### 2) 雑草対策

今後気温が高くなるにつれ、徐々に雑草が大きくなってきます。雑草が多いほ場では、時期を逃さないよう除草剤を使用し、早めの雑草防除を行いましょ。



4月～6月は「春の農作業安全確認運動」の実施期間です。

家族や仲間から、作業者へ「声かけ」（注意喚起）をしましょ。